

2018年度

「高校生グローバルスクール」のご紹介

現代のグローバル社会が抱えるさまざまな課題の解決には、これまでの文系・理系と呼ばれる枠組みを超えた分野を横断する発想が求められています。私たち、東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学の三大学は、西東京地区の半径5km圏内にある立地を活かして結集し、高度な専門性を持ちながら、従来の文系や理系の枠組みを超え協働し、課題解決に取り組むことのできる学生を育てることを目標に活動を行ってきました。

2017年度から高校1年生と2年生を対象に、文系・理系の枠組みを超えた学びを体験できる「高校生グローバルスクール」を開講しました。2018年度春季高校生グローバルスクールでは、国連のサミットで採択された、地球規模で解決を目指す17の「持続可能な開発目標(SDGs)」から「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」をテーマとして選びました。高校生グローバルスクールでは、大学生や大学院生との交流を通して、関心の異なる高校生の皆さんが協働しながら課題解決に取り組む学びを体験します。



2018年度春季高校生グローバルスクール

参加者の声

Hさん T高校1年

高校の政経の授業でSDGsについて習い、先生にグローバルスクールを紹介されました。アフリカの飢餓とか、環境問題に興味があったので参加を申し込みました。

講義を受けて驚いたのは、マイクロプラスチックによる海洋汚染の話。生物の体内にプラスチックが入っているなんて考えたことがありませんでした。講義ではネットや本からは得られなかった課題の情報が多く聞けたので、新鮮で楽しかったです。

スクールで得た最大の収穫は、やはり自分の視野の狭さを知ったこと。そしていろいろなことについて自分で調べる必要があると学べたことです。ぼくたちは授業で教えてもらっただけで、終わらせてしまいがちだけど、SDGsなどの短い単語の中には、深めるべき広大な世界が広がっていることに気がきました。

Sさん N高校2年

私は、将来、東南アジアの地球環境問題に関わる法律がどうなっているのか、法を整備することにより何ができるのか、を学びたいと思っています。そのためには理系分野も知っておく必要があるのですが、今回、参加しようと考えました。スクールでは専門分野を研究している教授の講義があって、高校の授業では勉強できないことをみんなより先に知ることができました。私にとって初めて考えるようなテーマで、問題意識が生まれました。中身の濃い貴重な2日間だったと思います。海外で学びたいとか働きたいという高校生もいて、その意識の高さに驚きました。高校では経験しなかったような刺激を受けて、私も勉強しようというモチベーションが上がりました。

Kさん S高校2年

僕の実家では電気屋を営んでいて、僕も機械を触るのが大好きなので、将来はそちらの方面に進みたいと思っています。今回、電通大でプログラミングやCO₂濃度の測定をし、農工大では理論的な講義を聴いて、改めて多角的な視点を持ちながら科学や工学に臨みたいと考えようになりました。単に技術を身につけるだけでなく、新しいブラスアルファを世の中に発信していきたいです。

高校の授業は、先生方からほとんど一方通行的に話を聴くかたちですが、スクールでは、学年の枠を超えて参加者みんなと対等な立場でディスカッションしながら学びます。参加者は全国から集まっていたので、いろいろな地域の人と一つのテーブルを囲んで、方言を交えながら、話が得意でない僕も打ち解けることができ、楽しかったです。高校のクラスは文系・理系に分かれていて同級生とも決まった話題になりがちですが、スクールでは理系の僕も自由時間に文系の人と小説の話ができて新鮮でした。「文理協働」でいろいろな方面への視野が広がりました。